



2021年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年10月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 吉野家ホールディングス
 コード番号 9861 URL <http://www.yoshinoya-holdings.com>

代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)河村 泰貴
 問合せ先責任者 (役職名)グループ財務経理本部長 (氏名)鶴澤 武雄 TEL 03-5651-8800
 四半期報告書提出予定日 2020年10月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年2月期第2四半期の連結業績 (2020年3月1日～2020年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第2四半期	81,988	△23.4	△5,970	—	△5,004	—	△5,708	—
2020年2月期第2四半期	107,066	6.7	2,936	—	3,023	808.6	1,879	—

(注) 包括利益 2021年2月期第2四半期 △6,000百万円 (—%) 2020年2月期第2四半期 1,698百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第2四半期	△88.33	—
2020年2月期第2四半期	29.10	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年2月期第2四半期	134,072	41,853	30.8
2020年2月期	126,167	48,385	37.9

(参考) 自己資本 2021年2月期第2四半期 41,282百万円 2020年2月期 47,796百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期	—	10.00	—	10.00	20.00
2021年2月期	—	0.00	—	—	—
2021年2月期(予想)	—	—	—	未定	未定

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年2月期の連結業績予想 (2020年3月1日～2021年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	172,300	△20.3	△8,700	—	△7,800	—	△9,000	—	△139.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規—社(社名) 、除外1社(社名)株式会社アークミール

(注) 詳細は、添付資料P. 11「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

2021年2月期2Q	65,129,558株	2020年2月期	65,129,558株
2021年2月期2Q	489,020株	2020年2月期	518,674株
2021年2月期2Q	64,622,784株	2020年2月期2Q	64,588,744株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
(4) 新型コロナウイルス感染症に関するリスク情報	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 11
(継続企業の前提に関する注記)	P. 11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 11
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	P. 11
(追加情報)	P. 11
(四半期連結損益計算書関係)	P. 11
(セグメント情報等)	P. 12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2020年3月1日から2020年8月31日まで)の連結業績は、連結売上高が819億88百万円(前年同期比23.4%減)、連結営業損失59億70百万円(前年同期は連結営業利益29億36百万円)、連結経常損失50億4百万円(前年同期は連結経常利益30億23百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は57億8百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益18億79百万円)と減収・減益となりました。

新型コロナウイルス感染症の拡大影響に伴い、グループ各社で店舗の休業・営業時間の短縮を実施したことにより、売上高は前年同期に対して大幅な減収となりました。国内においては緊急事態宣言の解除以降、海外においては外出禁止令の解除以降、徐々に営業再開が進み売上高は回復基調となりましたが、前年の水準を下回っております。

コスト面では、賃料減額交渉や管理可能経費の削減などに加え、グループ全体で構造改革に取り組みコスト削減を進めております。また、売上高の減少に対し、当期はキャッシュ・フローを重視し当初計画していた出店・改装投資も抑制し、不採算または売上高の回復が見込めない店舗については閉店を進めております。しかしながら上述のコスト削減策を実施したものの、売上高の大幅な減少や、閉店や店舗資産の収益力の低下に伴う減損損失および新型コロナウイルス感染症による損失など総額21億42百万円を特別損失として計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は前年同期に対して75億87百万円の減益となりました。なお、営業外収益として、助成金等収入8億60百万円を、また、各国政府や各行政の指示・ガイドラインに従い休業した店舗の休業期間中に発生した固定費の一部を新型コロナウイルス感染症による損失5億95百万円として計上しております。

引き続き各セグメントにおいて、感染症拡大の予防に努めながら、テイクアウト商品の拡充、デリバリー対応店舗の拡大や、機動的に販売施策を展開することで売上高の回復を図るとともに、連結売上高が前期に対して90%の水準であっても利益を創出するべく損益分岐点の引き下げに努めてまいります。

セグメント概況につきましては、次のとおりであります。

[吉野家]

売上高は、518億86百万円と、対前年同期比5.2%の減収となりました。

全国一斉休校を受け、お子様の食事の準備にご負担が増加すると考え、3月には「お子様の食事支援」と「ご家庭の食事支援」を、4月には外出自粛要請の拡大や緊急事態宣言を受け「牛丼テイクアウト15%オフキャンペーン」の実施や「テイクアウト限定ファミリーセット」を販売するなど、食のインフラとして各種支援策を機動的に実施しながら、店内飲食からテイクアウトへと変化する顧客ニーズに迅速な対応をいたしました。また、宅配需要の高まりに対応するため、宅配サービス対応店舗を645店舗へと積極的に拡大し、各種キャンペーンを実施いたしました。商品施策としては、3月から「朝牛セット」を、4月から「肉だく牛丼」や「スタミナ超特盛丼」を、6月から期間限定で「牛たん麦とろ御膳」を、8月から「肉だく牛カレー」を販売いたしました。また、販売施策としては、5月と7月に昨年大変ご好評をいただいた「ポケ盛」キャンペーンを、6月には「超特盛祭」を実施いたしました。しかしながら、店舗の営業時間の短縮などにより、既存店売上高前年比は91.9%となりました。セグメント利益は減収に加え、販売促進費ならびにテイクアウト用包材等のコスト増により5億89百万円と、前年同期に比べ27億円の減益となりました。同期間の店舗数は、17店舗を出店し、18店舗を閉鎖した結果、1,213店舗となりました。

[はなまる]

売上高は、95億17百万円と、対前年同期比40.1%の減収となりました。

減収の主な要因は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い商業施設内店舗の大規模な休業や営業時間の短縮を行ったことにより、既存店売上高前年比が6割の水準へと大幅に減少したことであります。商業施設の営業再開に伴い売上高は第2四半期以降回復傾向にあるものの、都市部への通勤人口の減少やフードコートの客席稼働率の低下といった厳しい状況が続いております。商品施策としては、3月には「とろ玉フェア」を、6月には「冷かけフェア」を、8月には「清涼辛旨!冷やし担々フェア」を実施いたしました。販売施策としては、3月にはご好評をいただいている「天ぷら定期券」を販売し、7月には「コウペンちゃん はなまる日和」とのコラボキャンペーンを実施いたしました。テイクアウト・デリバリー需要の高まりに対応するため、新たに「テイクアウト専用の500円(税込)メニュー」を販売し、デリバリー対応店舗を191店(前期末+95店)に拡大いたしました。これらに加え「天ぷら定期

券」の期間の延長やかけうどんの価格改定を行うなど、機動的に施策を展開いたしました。しかしながらセグメント損失は21億66百万円と、前年同期に比べ33億75百万円の減益となりました。同期間の店舗数は、13店舗を出店し、26店舗を閉鎖した結果、509店舗となりました。

[京樽]

売上高は、85億61百万円と、対前年同期比40.2%の減収となりました。

減収の主な要因は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い店舗の大規模な休業や営業時間の短縮を行ったことにより、既存店売上高前年比が6割の水準へと大幅に減少したことや、外出自粛要請に伴いイベントによる弁当販売が減少したことです。商業施設の営業再開に伴いテイクアウト事業を中心に売上高は回復傾向にあるものの、アルコール需要の減少により外食事業の売上高は厳しい状況が続いております。テイクアウト・デリバリー需要の高まりに対応するため、全業態において「すしパーティーセット」や、海鮮三崎港にて「ちらしずしのタネ」を販売するなど、テイクアウト商品の充実を図りながら、デリバリー対応店舗を71店（前期末+69店）に拡大いたしました。また、「静岡県産“わら焼”カツオ」など、産地にこだわった旬の食材を用いた季節メニューを各業態で販売いたしました。販売施策としては、テイクアウト事業において、「創業88周年記念祭あかふじセール」やご好評をいただいている「中巻セール」、外食事業における「本まぐろ祭」「(赤皿)99円セール」などを実施いたしました。しかしながらセグメント損失は18億34百万円と、前年同期に比べ21億66百万円の減益となりました。同期間の店舗数は、11店舗を出店し、21店舗を閉鎖した結果、325店舗となりました。

[海外]

売上高は、90億14百万円と、対前年同期比16.6%の減収となりました。

減収の主な要因は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い各エリアにおいて外出禁止令が発令されたことにより、店舗の大規模な休業や営業時間の短縮を行ったことです。アメリカは店内飲食の禁止は続いておりますがテイクアウト需要を獲得できており売上高は前年の水準まで回復しておりますが、営業再開が進む中国や、感染拡大が続くアセアンは、売上高が前年を下回って推移しております。休業・営業時間短縮による大幅な減収によりセグメント損失は、90百万円と、前年同期に比べ6億30百万円の減益となりました。同期間の店舗数は、29店舗を出店し、67店舗を閉鎖した結果、956店舗となりました。なお、海外は暦年決算のため1月～6月の実績を取り込んでおります。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ79億4百万円増加し、1,340億72百万円となりました。

これは主に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に鑑み、事業に必要な資金を安定的に確保するために金融機関からの資金調達を実施したことによる現金及び預金が119億92百万円増加したこと、一方で、有形固定資産について、アークミールの連結除外や、退店等により51億88百万円減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ144億36百万円増加し、922億18百万円となりました。これは主に、上記資金調達等により、短期借入金が128億91百万円増加、長期借入金が80億40百万円増加したこと、一方で、アークミール除外による負債の減少等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ65億31百万円減少し、418億53百万円となり、自己資本比率は、前連結会計年度末比で7.1%減少し30.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結売上高は、前期に対し、第1四半期75.2%、第2四半期78.0%、第2四半期累計76.6%で推移しました。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う各国政府や自治体の要請に対し、大規模な店舗の休業・営業時間短縮を実施したことにより大きな影響を受けました。国内においては、緊急事態宣言の順次解除に伴い売上高は緩やかな回復基調となりましたが、テレワークの継続や店舗のソーシャルディスタンスの確保、夜間に外出を控える状況は続いており、8月においても店内飲食は前年の水準を下回っております。

海外（決算期1～12月）においては、エリアにより感染症の進行状況が異なっております。アメリカは店内飲食の禁止は続いていますが、テイクアウト需要を獲得できており売上高は前年の水準まで回復しております。中国は3月以降に大半の店舗が営業再開し売上高は緩やかな回復基調となっておりますが、前年の水準には回復していません。アセアンは、エリア毎に感染拡大時期が異なっており、マレーシアは経済活動を再開しましたが、インドネシアなどでは依然感染拡大が継続しております。

連結売上高は、今後緩やかな回復が見込まれるものの、今期中に前年の水準にまで回復することは難しいと見込んでおります。損益面については、大幅な客数減の影響により減益となりますが、下半期は上半期には実行が難しかった店内飲食を獲得するための商品導入や各種キャンペーンを機動的に実施することによる客数回復に加え、仕入れコストの低減を含む全社的なコストダウンの迅速かつ強力な実行により上半期より改善する見通しであります。また、実際の売上高の回復状況にあわせて変更いたしますが、国内外の直営店舗で最大150店舗規模の閉店を見込んでおります。

グループ全体でのコスト構造を全面的に見直すことで、連結売上高が前期に対して90%の水準であっても利益を創出するべく損益分岐点の引き下げに努めてまいります。なお、2021年2月期の連結業績予想は2020年7月28日の開示から変更はございません。

(4) 新型コロナウイルス感染症に関するリスク情報

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、当社事業を取り巻く環境について先行き不透明な状況が生じています。

当社グループではお客様、従業員の安全・健康を第一に考え、各国政府や各行政の指示・ガイドラインに従い、店舗の一時休業や営業時間の短縮等を行うほか、本社部門においてはテレワークや時差通勤の推進等により感染拡大防止に努めております。しかしながら更なる感染拡大や長期化が実現した場合には、世界的な経済活動の停滞に伴う個人消費の低迷により、当社グループの業績や財務状況に重大な影響を及ぼす可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,604	34,597
受取手形及び売掛金	8,005	6,571
商品及び製品	3,262	3,374
仕掛品	66	64
原材料及び貯蔵品	3,657	4,875
その他	3,716	3,791
貸倒引当金	△8	△7
流動資産合計	41,303	53,267
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	28,706	26,904
使用権資産（純額）	2,586	2,265
その他（純額）	20,302	17,237
有形固定資産合計	51,595	46,407
無形固定資産		
のれん	1,797	1,669
その他	3,435	3,093
無形固定資産合計	5,233	4,763
投資その他の資産		
投資有価証券	3,666	3,338
差入保証金	15,916	13,970
繰延税金資産	3,376	4,707
その他	5,119	7,717
貸倒引当金	△45	△98
投資その他の資産合計	28,034	29,634
固定資産合計	84,863	80,805
資産合計	126,167	134,072

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,313	5,430
短期借入金	6,265	19,156
1年内返済予定の長期借入金	5,793	5,881
リース債務	2,633	2,312
未払法人税等	691	240
賞与引当金	1,405	1,053
役員賞与引当金	10	9
株主優待引当金	285	260
資産除去債務	43	344
その他	14,521	10,534
流動負債合計	37,963	45,223
固定負債		
長期借入金	27,757	35,798
リース債務	7,616	7,526
退職給付に係る負債	623	275
資産除去債務	2,978	2,573
その他	843	822
固定負債合計	39,818	46,995
負債合計	77,782	92,218
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,504	11,539
利益剰余金	29,332	22,978
自己株式	△639	△603
株主資本合計	50,463	44,179
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△10	0
為替換算調整勘定	△2,631	△2,861
退職給付に係る調整累計額	△24	△35
その他の包括利益累計額合計	△2,666	△2,897
非支配株主持分	588	571
純資産合計	48,385	41,853
負債純資産合計	126,167	134,072

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)
売上高	107,066	81,988
売上原価	37,541	31,103
売上総利益	69,524	50,885
販売費及び一般管理費	66,588	56,855
営業利益又は営業損失(△)	2,936	△5,970
営業外収益		
受取利息	25	42
受取配当金	47	0
賃貸収入	172	217
持分法による投資利益	47	-
助成金等収入	-	※1 860
雑収入	442	685
営業外収益合計	735	1,807
営業外費用		
支払利息	264	255
為替差損	76	13
賃貸費用	130	126
持分法による投資損失	-	256
雑損失	178	187
営業外費用合計	649	841
経常利益又は経常損失(△)	3,023	△5,004
特別利益		
固定資産売却益	5	20
特別利益合計	5	20
特別損失		
減損損失	231	1,416
契約解約損	4	130
新型コロナウイルス感染症による損失	-	※2 595
特別損失合計	235	2,142
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	2,793	△7,125
法人税、住民税及び事業税	990	172
法人税等調整額	△79	△1,534
法人税等合計	911	△1,361
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,881	△5,763
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	1	△55
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,879	△5,708

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,881	△5,763
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5	9
為替換算調整勘定	△120	△150
退職給付に係る調整額	1	△11
持分法適用会社に対する持分相当額	△58	△84
その他の包括利益合計	△183	△236
四半期包括利益	1,698	△6,000
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,701	△5,940
非支配株主に係る四半期包括利益	△3	△59

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	2,793	△7,125
減価償却費	3,776	3,579
のれん償却額	112	124
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△22	53
賞与引当金の増減額(△は減少)	138	△249
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△15	△1
株主優待引当金の増減額(△は減少)	9	△21
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△1	△5
受取利息及び受取配当金	△72	△43
支払利息	264	255
持分法による投資損益(△は益)	△47	256
助成金等収入	-	△860
固定資産売却損益(△は益)	△5	△20
減損損失	231	1,416
新型コロナウイルス感染症による損失	-	595
売上債権の増減額(△は増加)	△449	1,617
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,402	△1,455
仕入債務の増減額(△は減少)	1,482	△808
未収入金の増減額(△は増加)	△97	26
未払消費税等の増減額(△は減少)	472	△546
その他	1,008	△621
小計	8,175	△3,834
利息及び配当金の受取額	74	33
利息の支払額	△254	△259
助成金等の受取額	-	620
新型コロナウイルス感染症による損失の支払額	-	△540
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	363	△389
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,358	△4,369

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△7	△5
定期預金の払戻による収入	87	23
有形固定資産の取得による支出	△3,786	△3,273
有形固定資産の売却による収入	330	40
無形固定資産の取得による支出	△1,139	△248
無形固定資産の売却による収入	97	0
資産除去債務の履行による支出	△70	△69
差入保証金の差入による支出	△373	△156
差入保証金の回収による収入	302	193
貸付けによる支出	△26	△65
貸付金の回収による収入	47	422
投資不動産の売却による収入	-	13
関係会社株式の取得による支出	△5	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△110	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	122	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	-	△1,242
その他	14	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,517	△4,366
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△827	△1,353
短期借入金の純増減額 (△は減少)	127	13,494
長期借入れによる収入	7,030	13,944
長期借入金の返済による支出	△2,769	△4,577
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△17	-
配当金の支払額	△648	△648
その他	△1	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,895	20,858
現金及び現金同等物に係る換算差額	△53	△75
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	6,682	12,046
現金及び現金同等物の期首残高	15,660	21,500
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,343	33,546

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間において、当社の特定子会社であった株式会社アークミールは、2020年2月29日に全株式の譲渡を完了しております。それに伴い、同社を、第1四半期連結会計期間より、連結の範囲から除外しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は、国内においては5月25日の緊急事態宣言解除以降、感染の二次拡大により、一時的に売上高が減少したものの、徐々に改善に向かっており、今後もさらに改善に向かうと考えられますが、感染のさらなる拡大の懸念や海外の状況等、依然近未来を測定するには不透明な状況が続くと想定しております。

当連結会計年度以降の事業及び業績の回復見通しについては、緊急事態宣言解除後の日本国内における回復状況や、海外における回復状況も踏まえ、事業ごとに回復シナリオを複数用意し、グループとしてとりまとめを行っております。

結果、2020年度の連結売上高は、徐々に回復はするものの、2019年度対比12%減と見込んでおります（なお、2020年2月29日に株式譲渡した(株)アークミールの売上高影響は除外して計算しております）。店内飲食の回復等、施策を進めてまいります。現時点の事業ごとの売上推移から2021年度で全事業が19年度水準まで戻るとは見込まず、2022年度に新型コロナウイルス感染拡大以前と同等になると想定をしております。また損益においては、2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大影響による売上高減少や一時休業等の影響により、連結営業損失87億円を見込んでおります。現在、売上高獲得施策等に加え、コストセーブ策を推進し、仮に売上高が想定通りの回復に至らなくても以前の収益力が獲得できる様、構造改革を進めております。これにより、2022年度には売上高同様に損益についても2019年度水準に改善・回復すると想定しております。

当第2四半期連結累計期間の減損損失は、閉店や上述の通り事業ごとの測定の結果等により14億16百万円(前年同期は2億31百万円)を計上しております。また、繰延税金資産については、新型コロナウイルス感染症による影響を反映した今後の業績見通しおよび将来収益力等を勘案して回収可能性を判断しておりますが、当第2四半期連結累計期間に発生した繰越欠損金の影響により追加計上となっております。

なお、上述の仮定は現時点の判断であり、今後の状況次第では、見直しの可能性があります。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 助成金等収入

新型コロナウイルス感染症に伴う特例措置による政府及び各自治体からの雇用調整助成金収入等の金額であります。

※2 新型コロナウイルス感染症による損失

新型コロナウイルス感染症に対する各国政府や各行政の指示・ガイドラインに従い、店舗の一時休業や営業時間の短縮等を実施いたしました。そのうち一部の店舗の休業期間中に発生した固定費（人件費・地代家賃・減価償却費等）を新型コロナウイルス感染症による損失として特別損失に計上しております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	京樽	海外	アーク ミール	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	54,195	15,757	14,221	10,804	10,215	105,195	1,870	107,066	—	107,066
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	518	138	88	—	43	789	464	1,253	△1,253	—
計	54,714	15,896	14,310	10,804	10,259	105,985	2,334	108,319	△1,253	107,066
セグメント利益 又は損失(△)	3,289	1,208	331	539	△239	5,130	60	5,190	△2,254	2,936

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社14社を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,254百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,298百万円、セグメント間取引消去134百万円及びのれんの償却額△89百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	京樽	海外	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	51,400	9,417	8,511	9,014	78,343	3,645	81,988	—	81,988
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	485	100	49	—	635	401	1,036	△1,036	—
計	51,886	9,517	8,561	9,014	78,979	4,046	83,025	△1,036	81,988
セグメント利益 又は損失(△)	589	△2,166	△1,834	△90	△3,502	△321	△3,824	△2,146	△5,970

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社15社を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,146百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,218百万円、セグメント間取引消去172百万円及びのれんの償却額△99百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社の連結子会社であった株式会社アークミールは、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外されたため、第1四半期連結会計期間より「アークミール」を報告セグメントから除外しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他	全社・消去	合計
	吉野家	はなまる	京樽	海外	計			
減損損失	283	138	408	532	1,362	10	42	1,416